

全校で走る5分間の朝マラソン。朝の光を浴びて、みんなで走る気持ちのよい時間となっていて、音楽が流れている間、自分のペースを作って一生懸命頑張っている姿が見られます。この持久走への取組で、身体も心もたくましく成長させていきたいものです。

今回は、研究発表会の公開授業3年1組の授業の様子と研究協議でのご意見等をお知らせします。

### 単元名

中小パワーアップ大作戦！「4つのあ」について自分の考えを書こう **全8時間**

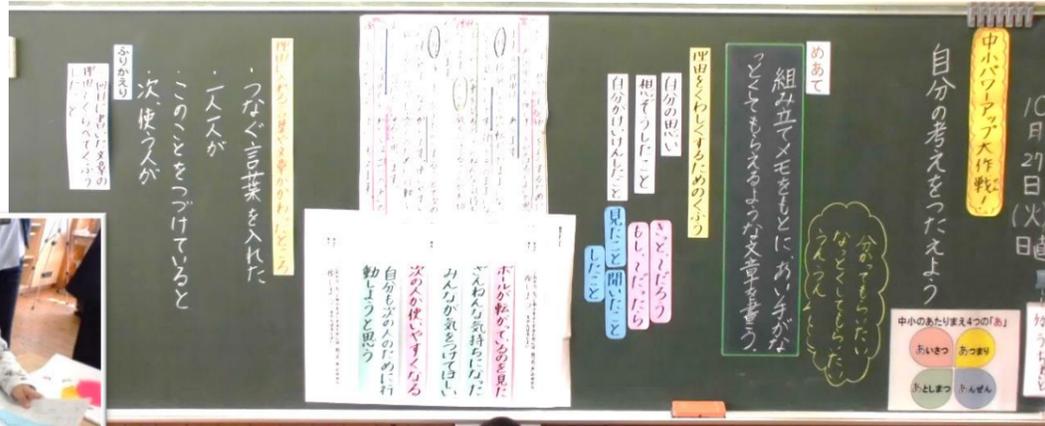
教材名 「自分の考えをつたえよう」

公開授業：3年1組 伊与田 教諭

身に付けさせたい資質・能力：自分の考えと理由を明確にして、工夫して書き表す力



考えを伝えるために、大切だと思った理由を書いています



最終板書

### 授業についてリフレクション：授業者より

#### 目標達成に向けて

考えを伝えるために必要な理由を説明づける、自分の思いや経験したことなどを入れながら文章にしていくことを目指した。メモから文章にしていく過程で、よりよい言葉を選びながら文章を書いている児童を十分見とることができなかった。

#### 本気になる課題

2回目の意見文を書いた後、伝えたい相手に一度読んでもらって、評価（チェックリストの活用）をしてもらった。その評価を意欲につなげ、目的意識を持たせ、課題に意欲的に取り組めるようにしてきた。

#### 言葉による見方・考え方

よりよい言葉子どもたちが選び出す時間が少なかった。書き切ることで達成感を持たせたかったが、この時間内に書き切れない子どもがいた。

分科会では、参観の視点（3点）に沿って協議を行っていただきました。（抜粋）

#### 1. 本時の目標は達成できたか。

- 児童の思いからめあてが立てられていた。
- 複数回（3回）書いて比べることで、理由が明確になっている。
- ▼2回目の文章の段階で、多くの児童が目標を達成していたと思うが、レベルアップさせたかったことは何か。⇒経験・思いなどを入れたり、適した言葉を選んだりして書くこと。どういう言葉でよりよくなるか、子どもたちに十分落ちていなかったのではないか。



#### 2. 児童が本気になる課題の工夫があったか。

- 自分たちの学校をよくしようという身近な課題で取り組みやすい。
- 言語活動のモデルを示していることで、参考にして書くことができていた。

#### 3. 「言葉による見方・考え方」を働かせるための手立てがあったか。

- 「言葉の宝箱」でたくさんの言葉に出会い、適した表現を考えていた。
- 相手に伝わりやすいように、文章に言葉を付け加えていた。
- ▼メモの段階で、理由と事例とのつながりは合っているかどうか、吟味することが必要ではないか。

### 助言者：間指導主事より（本単元・本時の学びのポイント）

#### ①付けたいかに最適な言語活動を設定

- ・意見を選択する必要があること
  - ・より身近な内容であること
  - ・他教科等との関連
  - ・相手は目の前にいる人ではなく、読んでもらう必然性があること
- 今回中村小で取り組んでいる4つの「あ」を題材にすることで、伝える相手に考えてほしいと意欲を持たせ、書くことに向かうことができた。

#### ②子どもと共にめあてを作る

子どもが「考えたい」というめあてにするために、本当に解決したいことを引き出してから、めあてにつなげていたところが生きていた。

#### ③考えとその理由、事例との関係

「考え（ピンクの付箋）」と「その理由（ブルーの付箋）」が繋がっていないと、文章が伝わらないということに、本時記述に向かう交流の中で気付くことができるようにしたい。経験・思い・想像したことなどを入れて書いている子どもからアドバイスをもらって、書き加えている姿が見られた。

なぜ言葉を書き変えたのか、先生の思いをモデル文で共有すればよかった。言葉を吟味して書き変えることで、どんな効果があるのか全体で考える必要がある。

単元の始め、「4つのあ」の中の自分が大切だと考えたことについて、イメージマップで考えを広げていた子どもたち。（「4つのあ」とは、「あいさつ」「あんぜん」「あつまり」「あしまつ」のことです。）

伝えたい内容に応じて、伝える相手もそれぞれ違っていました。また、複数回〔3回〕書いて螺旋的な学習過程の中で、自分の考えと理由を明確にして書く力を付ける単元構想としていました。



モデル文の作成や掲示物の準備、ノートの確認など事前の準備を入念にされていた伊与田先生。ペアで友達の文章についても一緒に確かめ、1回目よりも2回目、3回目とレベルアップを図り、意見文を書きあげることができていました。